

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果と子どもたちの学力向上に向けて

～平成29年度全国学力・学習状況調査から見てきたこと～

家で勉強していますか？ 読書はしていますか？ ゲームや携帯電話・スマートフォンの使用時間は長くはないですか？

保護者・地域の皆様へ

京都市立学校全体の平均正答率（全教科：国語，算数・数学）は、全国平均を上回る良好な結果となりました。これは、子どもたちの頑張り、PTA・保護者・地域・学校運営協議会等のご理解とご協力、教職員の熱意溢れる実践の成果と考えますが、子どもたち一人一人の結果には、それぞれ課題も見られます。

学校におきましても、子どもたち一人一人を大切に、日々分かりやすい授業に努めていますが、子どもたちの基本的な生活習慣・家庭学習をはじめとした自学自習の習慣化のような『家庭での過ごし方』については、家庭・地域のご理解とご協力が不可欠です。

ここでは、特に気になる『アンケート項目』と『教科の平均正答率』の関係について紹介します。ぜひ、子どもたちの放課後をはじめとする家庭での過ごし方について、ふり返って考えてみてください。

そして、子どもたちが夢と希望を持ち、社会や家庭の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できるよう、豊かな学びと健やかな育ちに向け学校とともに、子どもたちをあたたかく見守り、励ましていただければ幸いです。

1 教科に関する調査について（公立学校）

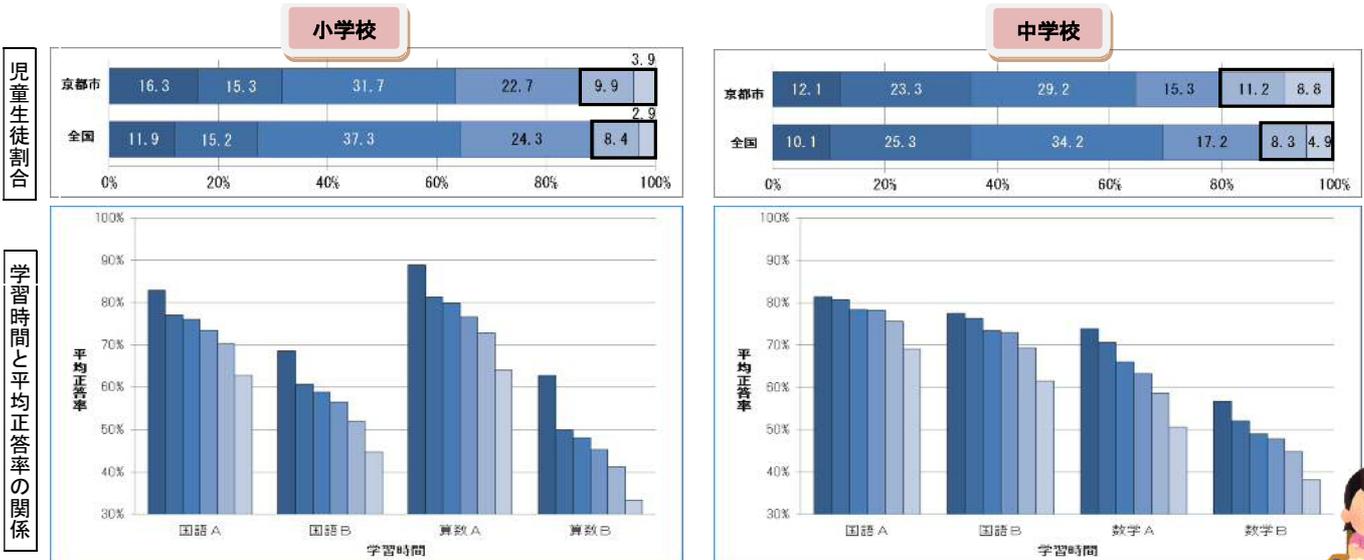
	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
京都市	76	59	80	49	78	73	65	49
指数	101.6	102.6	101.8	106.8	100.8	101.1	100.6	101.9
京都府 (京都市を含む)	76	59	80	48	78	73	66	49
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1

※指数…全国の平均正答率を100とした場合の京都市の平均正答率の値

2 アンケート項目と教科の平均正答率について

○平日の学習時間と平均正答率の関係

■3時間以上 ■2時間以上, 3時間未満 ■1時間以上, 2時間未満 ■30分以上, 1時間未満 ■30分より少ない ■全くしない



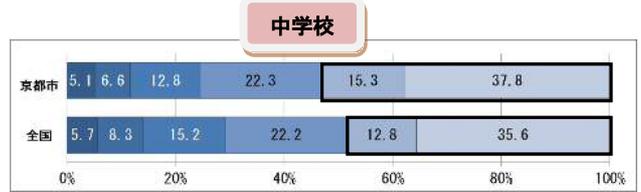
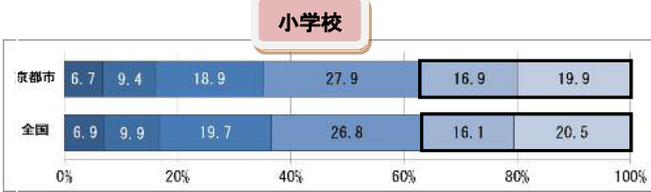
平日の授業以外の学習時間が「30分より少ない（「全くしない」を含む）」と回答した子どもの割合は全国平均よりも大きく、家での勉強時間が十分でない様子が伺えます。

「家庭学習にしっかりと取り組んでいるほど、正答率が高くなる」のは、京都市も含め全国的な傾向です。学校でも指導いたしますが、ご家庭でも授業の予習や復習、宿題等に取り組むよう、子どもたちが家庭学習をはじめとした自学自習の習慣をつけることのできる環境を整えていただきますようお願いいたします。

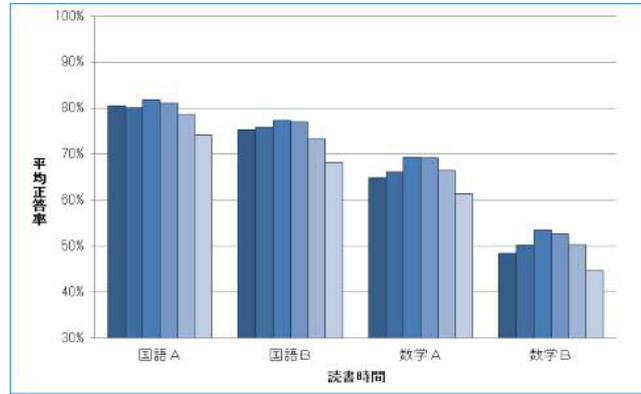
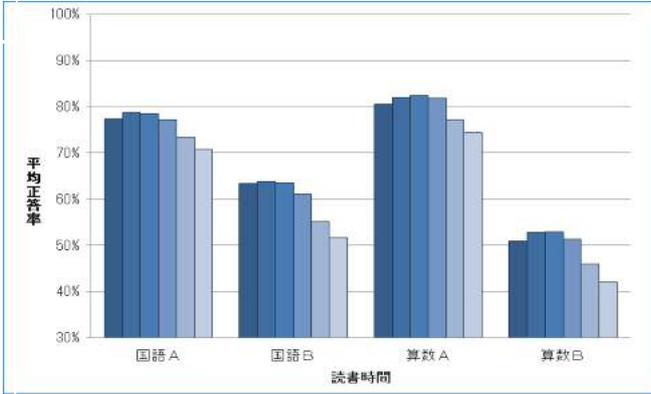
○平日の読書時間と平均正答率の関係

■2時間以上 ■1時間以上, 2時間未満 ■30分以上, 1時間未満 ■10分以上, 30分未満 ■10分より少ない ■全くしない

児童生徒割合



読書時間と平均正答率の関係



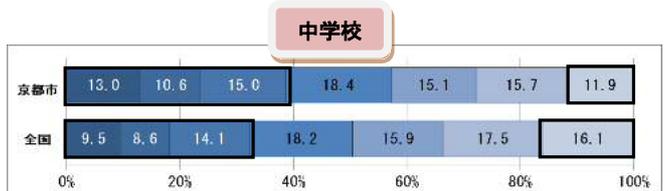
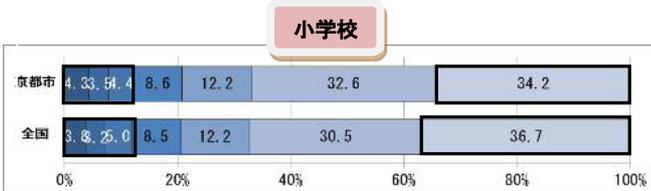
平日の読書時間が「10分よりも少ない（「全くしない」を含む）」と回答した子どもの割合（小学校36.8% 中学校53.1%）は、全国平均よりも大きく、特に中学生の読書時間が十分でない様子が伺えます。

「読書を全くしない子どもたちの正答率は、読書をする子どもたちと比べて低い」のは、京都市も含め全国的な傾向です。読書は学力の基盤となる読解力の育成等に影響があるものと考え、学校では、読書習慣の定着に向け、朝読書の実施等、読書活動の充実を図っていますが、ご家庭でも読み聞かせや市立図書館の利用を促していただく等、子どもたちが読書の楽しさを知り、読書の幅を広げるような環境を整えていただきますようお願いします。

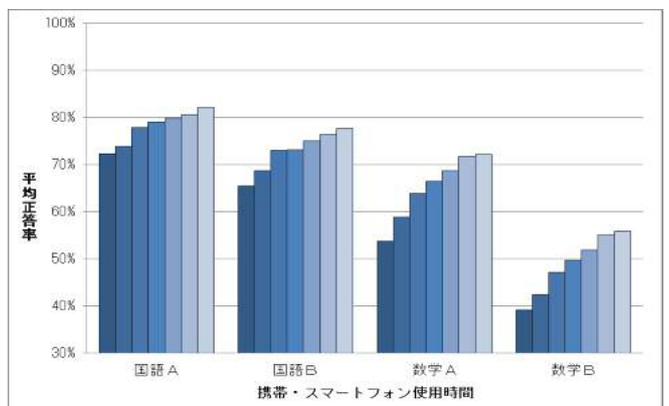
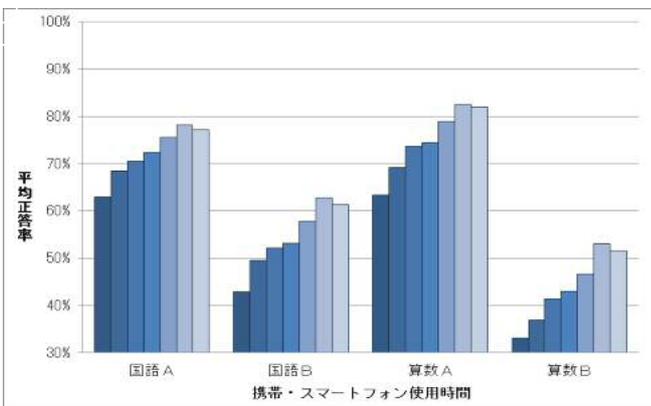
○平日の携帯電話・スマートフォンの使用時間と平均正答率の関係

■4時間以上 ■3時間以上, 4時間未満 ■2時間以上, 3時間未満 ■1時間以上, 2時間未満 ■30分以上, 1時間未満 ■30分より少ない ■携帯電話やスマホを持っていない

児童生徒割合



携帯等使用時間と平均正答率の関係



携帯電話やスマートフォンを所持している子どもの割合は全国平均よりも大きく、また、平日の携帯電話・スマートフォンの使用時間が「2時間以上」と回答した子どもの割合も全国平均よりも大きく、特に中学生の勉強時間などにも影響を与えていると考えられます。

「携帯電話・スマートフォンの利用時間が短いほど勉強時間が長くなり、正答率が高くなる」のは、京都市も含め全国的な傾向です。携帯電話・スマートフォンの使用方法等については、学校でも指導いたしますが、家庭でも使用時間等のルール作りを行う等、子どもと話し合ってくださいようお願いします。

1 京都市小中一貫学習支援プログラムの活用

義務教育の確かな学びをつなぐ本市独自の取組である「京都市小中一貫学習支援プログラム」では、宿題を含む予習や復習、既習事項が定着したかどうかをみる確認テストなどを通して、**家庭学習をはじめとした自学自習の学習習慣（計画→事前学習→確認テスト→結果→事後学習）**を身につけるための「プログラム」を実施しています。今年度は、その実施回数を小学校4年生で1回、中学校1年生で1回、計2回増やし、小学3年から中学3年まで計15回とする等充実を図っています。

確認テストからわかる、児童生徒がつまずきやすいポイントや学力の定着に課題が多い単元・領域については、各回ごとに、わかりやすい資料をご家庭にお渡しするとともに、学校においては、全国調査の結果とともに、京都市独自の分析システムにより多面的で詳細な結果分析を行い、教職員間、また小中学校間でその情報を共有し授業改善と個々の子どもの指導に活かしています。ご家庭でも、本プログラムで配布する事前学習教材や事後学習教材等の各種資料をご活用いただき、家庭学習をはじめとした自学自習の習慣をつけることのできる環境を整えていただきますようお願いいたします。

学年	時期	教科	名称
小3	1月	国語、社会、算数、理科	プレジョイントプログラム
小4	8～9月	国語、算数	
	1月	国語、社会、算数、理科	
小5	8～9月	国語、算数	ジョイントプログラム
	1月	国語、社会、算数、理科	
小6	8～9月	国語、算数	
	1月	国語、社会、算数、理科	
	4月(中1)	国語、算数	
中1	10月	国語、社会、数学、理科 英語	学習確認プログラム
	1～2月		
中2	7月		
	10月		
	1～2月		
中3	5月		
	10月		

2 小中一貫教育の推進・充実

義務教育9年間の学びと育ちを見通した「小中一貫教育」についても、平成23年度以降、全ての中学校区で取組を進めています。小中一貫教育推進に関する「5つの視点」として、「小中一貫教育目標の設定」、「教育課程／指導形態の工夫・改善」、「教育活動の連続性の確保」、「教職員間の連携・協働」、「家庭・地域との連携・協力」を定め、**小学校・中学校の教職員が目指す子ども像を共有し、学力状況等子どもたちの実態を踏まえ、小学校高学年での教科担任制の導入や中学校での小学校の授業形態（めあてやふりかえりの徹底等）を参考とした授業の工夫等、互いがそれぞれの良さを取り入れることで、指導力の向上を図り、中学校進学時に新しい環境での学習や生活に不適應をおこす「中1ギャップ」の緩和などの成果をあげています。**

さらに、平成27年度末には、5つの視点に基づく取組をさらに推進するための指針である「京都市小中一貫教育ガイドライン（試案）」を策定し、現在全ての中学校区において、義務教育卒業時に目指すべき子ども像やその実現に向けた「軸となる取組・活動」などを明らかにした「小中一貫教育構想図」を作成し、具体的な実践に取り組むなど、中学校区の状況に応じた小中一貫教育の更なる充実を図っています。

3 授業等での指導の工夫・改善や課題のある学校への支援

各学校では、**授業冒頭での学習の「めあて」の提示と授業後半での「ふりかえり」の実施、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある授業づくりの工夫等**、日々取組の徹底と更なる改善を図っています。

他にも、基礎的・基本的な学力の定着に一定の取組が必要と認められる中学校区や学力向上に積極的に取り組もうとする中学校区に対して、教育委員会の学力向上プロジェクトチームが中心となって、重点的に支援しています。

京都市立学校で実践されている学力向上・授業改善の取組事例について

各学校で実践されている学力向上・授業改善の具体的な取組については、京都市が発行しているリーフレット「学びのコンパス～小中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～」をご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000158413.html>

(京都市教育委員会トップページ > 学校教育 > 小中一貫教育・学力向上 > 全国学力・学習状況調査)